

次期総合計画・都市計画マスタープラン  
麻溝地区まちづくり会議報告書

平成30年9月

麻溝地区まちづくり会議

## 目 次

本報告書について	P 1
(課題と対応方策)	
1 都市計画・都市整備	P 2
2 【重点】道路・交通	P 3
3 自然・環境	P 4
4 産業・観光・商店街	P 4
5 【重点】安全・安心	P 5
6 健康・医療・福祉	P 6
7 教育・子育て	P 6
8 地域コミュニティ	P 7
会議経過	P 8

## 本報告書について

この報告書は、市が策定を進めている次期総合計画、区別基本計画及び都市計画マスタープランに対し、まちづくり会議として麻溝地区の課題を市に伝えるため、平成30年5月から9月までの全4回で地区の現状と課題を抽出し、必要な対応方策をまとめたものです。

検討に際しては、より多くの委員の発言を引き出すため、まちづくり会議委員が4つのグループに分かれ、各グループで自由に出された意見を記録した上で、その意見をそのまま報告書の形に取りまとめた上、全体で共有しました。

このため、対応方策は、実現性の高いもの、低いもの、短期的な対応が見込めるもの、長期的に取り組む必要があるものなどが混在しています。また、行政への提案という性質上、記載されている項目については、関係機関・団体との調整は行われておらず、実施が決定されているものではありません。

## 1 都市計画・都市整備

### 現状と課題

麻溝地区では、県道52号（相模原町田）において、相模原・愛川ICの  
開通に伴い、交通量の増加や慢性的な渋滞を抱えています。一部、拡幅整備  
が完了している区間もありますが、進捗状況が実感できない状況があります。

### 対応方策

- ・都市計画決定区間の拡幅整備進捗状況を随時公表し、明確にする（行政）



## 2 【重点】道路・交通

### 現状と課題

麻溝地区では、生活道路において経年的な劣化が見受けられるほか、相模原・愛川 I C が開通したことによる県道 5 2 号線の渋滞回避の迂回路として利用されるため、交通量の増加が課題となっています。さらに、旧来の地域においては、狭あい道路が多く、特に通学路として利用されている道路では児童・生徒の安全確保が早急に必要です。

また、交通については、公的機関や主要な施設などへのアクセスに不便を感じることも多く、生活拠点間の移動手段の検討や地域の足である J R 相模線の運行本数増加が求められています。

### 対応方策

- ・ 定期的な道路のパトロールを行い、標識、カーブミラー、歩道橋、グリーンベルトなどの設置及び補修を実施（行政）
- ・ 道路の破損状況等の通報を促進するため、道路通報アプリ「パッ！撮るん。」の周知（行政・市民）
- ・ 買い物や配達について自動車や自転車を使わずにできるよう、ドローンの活用など様々な方策についての検討（行政）

#### ★道幅の狭い通学路では、通学時間帯の交通規制をかけるなどの安全対策の実施（行政・市民）

- ・ 登下校時の見守りなど、学校、地域、行政が一体となった取組の実施（行政・市民）
- ・ 原当麻駅と女子美術大学間の交通利便性を向上させるため、福祉施設等の空き車両を乗合バスとしての活用（行政）
- ・ J R 相模線について、上溝駅を複線化し上下線待ち合わせができるよう関係機関との調整（行政）

### 3 自然・環境

#### 現状と課題

麻溝地区では、ハクビシンやアライグマなどの有害鳥獣による農作物への被害が発生している状況があります。

#### 対応方策

- ・被害の拡大防止、軽減のために、駆除・捕獲の徹底（市民・行政）

### 4 産業・観光・商店街

#### 現状と課題

麻溝地区では、地区内で生産した農作物やホームタウンチームなどの地域資源をPRできるような場所がないため、地区外からの集客を見込める施設の設置が求められています。

#### 対応方策

- ・地元農業生産物などの物産展ができる道の駅などの設置（行政）
- ・地域の名所やホームタウンチームをPRできる観光案内所の設置（行政）

## 5 【重点】安全・安心

### 現状と課題

麻溝地区では、相模川や鳩川が流れており、大雨時の水害に対する十分な備えが必要です。さらに、災害時に助け合うためには、自治会や隣近所による地域連携を図り、災害時要援護者の把握など、日ごろからの備えが必要です。

また、麻溝地区には消防署がなく、救命率の向上や増大する救急需要などに対応するため、救急車や消防車が速やかに現場に到着できるよう、消防分署の整備が必要です。

防犯については、パトロールや子どもの見守りなどの地域活動が活発化しており、地域住民の意識は高まっているものの、治安が良くなっている印象は薄く、更なる防犯対策の強化が必要です。

### 対応方策

#### ☆高台が確認できるよう、高低差を表示したハザードマップの作成（行政）

- ・避難所までの避難経路に川沿いや橋が含まれる場合があるため、経路の見直しの実施（市民）
- ・市民一斉清掃の日などを活用し、定期的に側溝清掃を行うよう仕組みを整え広く周知（行政・市民）
- ・相模川沿いの浸水想定区域の雨水管整備（行政）
- ・民生委員と自治会の協力体制を強化し、市と連携しながら災害時要援護者の把握に努める（行政・市民）
- ・自治会ごとの特性を反映させた具体的な災害対応マニュアルを整備し、広く周知（行政・市民）
- ・救急隊の到着時間の短縮による救命率向上や増大する救急需要などに対応するため、地区内への消防分署の整備（行政）
- ・企業と連携し、防犯カメラなどへのA Iの導入（行政・市民）
- ・青色防犯パトロール制度について周知・活性化（行政）
- ・警察、地域、行政が連携し、情報の集約や見守りを実施するなど、防犯対策の強化（行政・市民）
- ・J R相模線を境とした交番の増設（行政）

## 6 健康・医療・福祉

### 現状と課題

医療等に関する情報が乏しく、医療機関や介護施設等の名称や場所などについて周知する必要があります。

また、罹患者の重症化を予防するには早期発見が重要であるため、定期的に検診を受けられる仕組みづくりが求められています。

### 対応方策

- ・高齢者支援センターが作成した公共機関・介護保険機関・医療機関等マップを基に、近隣地区の機関も含めたマップを作成し、広く周知（行政）
- ・検診費用の無料化など、助成の実施（行政）

## 7 教育・子育て

### 現状と課題

麻溝地区では、現在児童クラブでの待機児童は発生していないものの、麻溝こどもセンターは満員の状態であり、また、広場や公園等においては、野球やサッカー等の球技が禁止されていて、遊び場所が限られていることから、子どもたちが安全にのびのびと過ごせる空間が求められています。

### 対応方策

- ・こどもセンターの増設（行政）
- ・こどもセンターの代替場として、既存建物などを活用した居場所づくりの実施（行政）
- ・子どもの広場など、遊び場や交流の場として活用できる公共用地の取得（行政）
- ・コートやゴールなどを使いながら広い空間で球技が楽しめるよう、放課後の校庭や体育館の開放（行政）



## 8 地域コミュニティ

### 現状と課題

麻溝地区では、まちづくりセンター・公民館の移転整備が進んでいる一方で、誰もが気軽に集まれる場所がなく、交流する機会の充実と共に求められています。

また、自治会や地域活動において、若者などの参加が課題となっており、担い手確保の観点からも、対応が求められています。

### 対応方策

- ・公民館とは別に、コミュニティ施設の設置（行政）
- ・地域の活性化をめざし、各団体で開催するイベントなどについて情報共有・伝達の実施（市民）
- ・若者や移り住んできた人も地域活動に参加しやすい工夫の検討（行政・市民）



## ○会議経過

日 程	会 議 内 容	委員出席数
平成30年 5月16日	第1回 ・地域の課題（良くなった・悪くなった点）の抽出	21名
6月20日	第2回 ・課題と対応方策検討①	20名
7月18日	第3回 ・課題と対応方策検討②	18名
9月 5日	第4回 ・報告書のとりまとめ	18名